



愛知県が自動運転実証実験を進める目的



地域諸課題の解決



社会受容性の喚起



次世代産業の振興

あいち自動運転推進コンソーシアム [2017年10月~]

□ 目的

- (1) 企業・大学等と市町村とのマッチング
- (2) 社会的受容性の醸成
- (3) 新たな事業、ビジネスモデルを創出

社会実装
の実現

□ 事業内容

自動運転の
実証実験

産学行政の
マッチング

ワンストップ
サービス

先進事例の
情報共有

新事業・ビジネスモ
デル創出に向けた
調査・研究

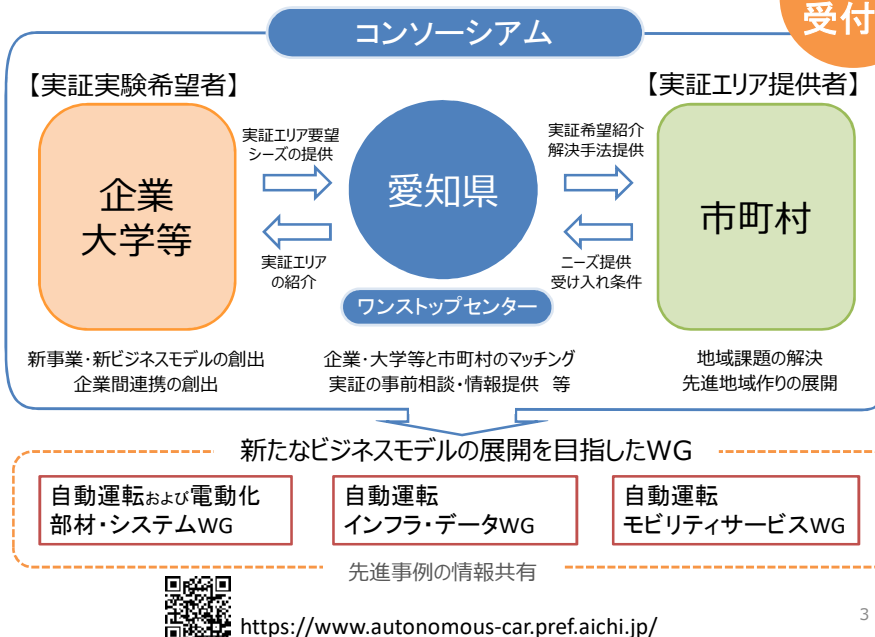
□ 会員 (2021年8月末現在)

会 員: **122**機関 (自治体:36機関 企業:78機関 大学:4機関 関係団体:4機関)
学識者: 5名

2

あいち自動運転推進コンソーシアムの枠組み

参加
受付中



3

新事業、新ビジネスモデル創出に向けた調査研究

□ 目的

- 最新情報や課題等の共有
- 県内企業の新ビジネスに対応できる体制づくり、裾野拡大
- 自動車産業の振興

□ テーマ・内容

産学行政連携による**3つのワーキンググループを開催**、技術動向等を把握しつつ、ビジネス展開の可能性や具体化に向けた課題等を研究・検討していく。

グループ名	主な検討テーマ	2020年度の講演テーマ
自動運転及び 電動化 部材・システムWG	1 AI等の システム 関連 2 センサー等の 電装・電子部品 関連 3 部材等の 車体構造 関連	自動運転OS「 Autoware 」の最新動向について (株) ティアフォー
自動運転 インフラ・データ WG	1 5Gネットワーク等の 通信システム 関連 2 ネットワーク攻撃等への セキュリティ 関連 3 高精度 3Dマップ・ダイナミックマップ 関連	自動運転社会に貢献する コーティング材料/技術 について 日本ペイント・インダストリアルコーティングス (株)
自動運転 モビリティサービス WG	1 物流・宅配サービス 関連 2 都心部移動車向け 移動サービス 関連 3 シェアリングサービス 関連	自動運転実証実験支援サービス「 Level IV Discovery 」を活用した事例紹介 アイサンテクノロジー (株)

4

あいち自動運転ワンストップサービスセンター [2017年9月～]

□ 取組

[2014年度～] (自動車安全技術PTにおいて支援)

愛知県が、**警察や道路管理者等とのワンストップ調整を開始**

[2016年からは、警察庁ガイドラインに基づく事前連絡に対応]

[2017年9月～] (あいち自動運転ワンストップセンターにおいて支援)

国家戦略特区の区域計画認定[あいち自動運転ワンストップセンター]

機能を拡充(全国初、愛知・東京:当時)

□ 目的

事業者や研究機関のもつ優れたシーズと、市町村の抱えるニーズの**マッチング**

日本で最も**実証実験が実施しやすい地域**の実現

安心・安全で**円滑**な実証実験の実施

□ 設置主体

愛知県及び国 (内閣府、警察庁、総務省、経済産業省、国土交通省)

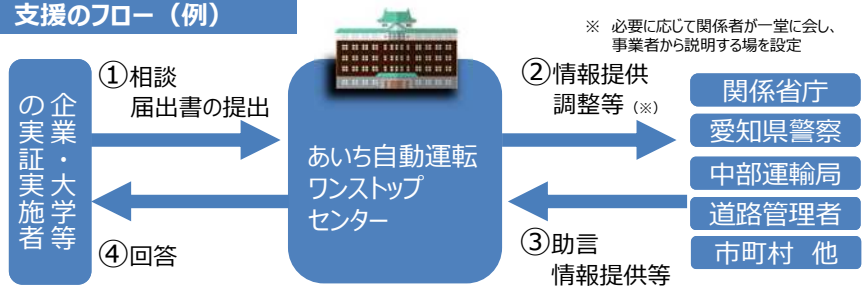
[設置場所] 愛知県経済産業局産業部産業振興課**次世代産業室** (愛知県本庁舎 1階) 5

あいち自動運転ワンストップサービスセンター

取組内容

調整段階			実施段階	
電話・窓口 相談受付	実施者・市町村 マッチング	関係機関 調整・手続	国等関係者 事前連絡	関係地域 周知・助言

支援のフロー（例）



<https://www.autonomous-car.pref.aichi.jp/onestop>

6

企業・大学等と市町村とのマッチング、ワンストップサービス

支援実績

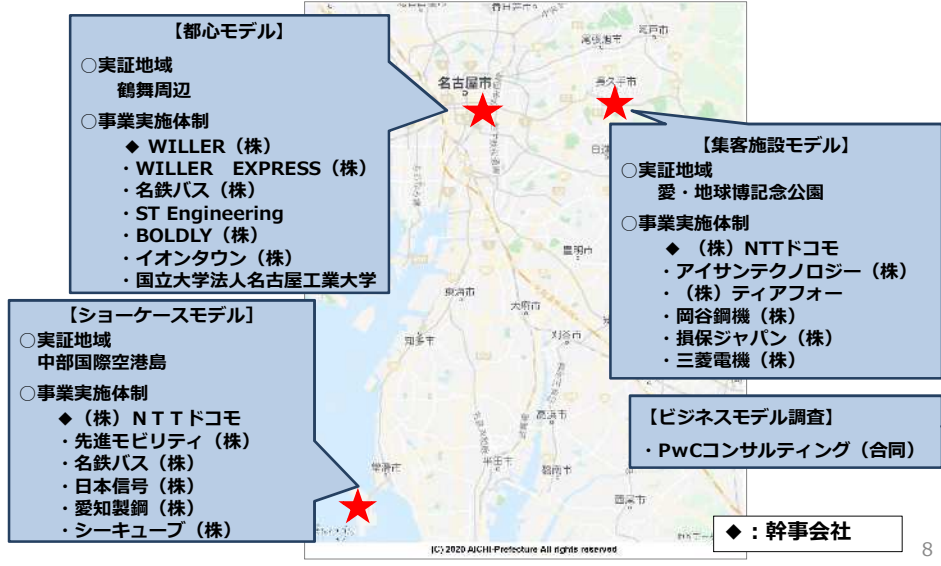
- 約50の事業者から290件の相談実績有（2017年9月～2021年8月）
- 主な支援実績については以下のとおり

実施主体	(株)ティアフォー	新明工業（株）	三井不動産（株）	名古屋大学
実施時期	2019.10～	2020.9	2021.3～	2021.6～8
実施場所	愛・地球博記念公園内 【閉鎖空間】	豊田四郷駅周辺 （区画整理事業区域内） 【閉鎖空間】	ららぽーと愛知東郷～徳重駅【公道】	春日井市高蔵寺周辺 【公道】
使用車両	マイリー・カート 	トヨエース 	ポンチョ 	カート型車両と小型バス型車両 
実施内容	・自動運転モビリティによるサービス実用化に向けた走行試験 ・知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期	・工場内における資材移動に自動運転技術の活用を想定し開発した自動運転トラックの走行実証を実施	・大型ショッピングモールと地下鉄駅間での小型バス車両による実装	・オンデマンド型の自動運転車および定時定路線型の小型バス車両による移動サービスの導入実証実験を実施

7

自動運転実証実験の実施・推進

これまでの取組を更に推し進め、交通事業者等が実運行において再現可能かつ持続可能なビジネスモデルの構築を目指し実証実験を実施（2021）



自動運転実証実験の実施・推進

これまでの取組を更に推し進め、交通事業者等が実運行において再現可能かつ持続可能なビジネスモデルの構築を目指し実証実験を実施（2021）

2021 実証実験の概要

モデル類型	ショーケース	集客施設	都心
実証地域	常滑市 中部国際空港島	長久手市 愛・地球博記念公園	名古屋市 鶴舞周辺
道路種別	公道と閉鎖空間	公道と閉鎖空間	公道
実施ルート (予定)	[予定] ・第1旅客ターミナルビル ～貨物地区(公道) ・第1旅客ターミナル ～第2旅客ターミナル (閉鎖空間)	[予定] ・リコモ公園西駅 ～公園西口駐車場(公道) ・西エントランス広場 ～地球市民交流センター 方面(閉鎖空間)	・イオンタウン千種 ～名古屋工業大学 ・イオンタウン千種 ～JR鶴舞駅
実証テーマ	・公道と空港制限エリアの同時 運行・管理	・リコモ駅から園内目的地への シームレスな移動	・都心における自動運転を利用した移動
使用車両	小型バス車両	タクシー型車両、カート	自動運転用電気自動車
特徴	・貨物地区と空港制限エリアの 2ルートを1か所の遠隔席から一元管理 ・早朝・深夜の運行 ・遠隔監視において、AIを活用した映像解析を利用 ・路側センサー、信号協調による路車間協調 ・磁気マーカの活用	・リコモ公園西駅から園内の目的地へ複数台の自動運転車を利用したスムーズな送客 ・運行管制システムにより、利用需要に応じて、複数の走行ルート、運行ダイヤ、配車台数を自動設定し運行 ・県交通対策課のMaaS実証実験との連携	・幹線道路を含むルートで運行 ・長期間(2か月半)の運行による一般車両との混在交通での自動走行に係る知見蓄積 ・将来的に、名古屋駅と鶴舞を自動運転車で結ぶモビリティサービスへつなげる

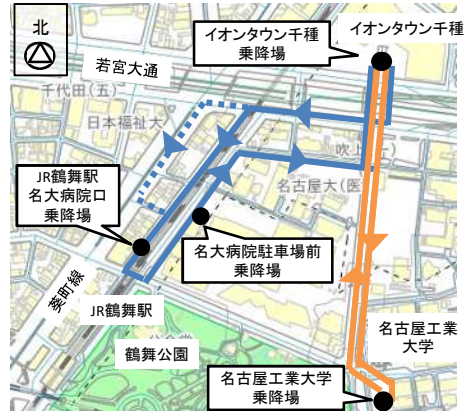
都心モデル：鶴舞周辺での自動運転実証実験

特徴

- 幹線道路を含む道路で交通事業者による運行
- 2か月半という長期間にわたっての運行
- ハンドル、アクセルペダルのない自動運転専用の電気自動車を使用



自動運転車両
アルマ



走行ルート